

日本臨床検査自動化学会科学技術委員会
平成 30 年度第 2 回委員会議事録

1. 日時：平成 30 年 10 月 12 日（木）13:30～14:30
2. 場所：神戸国際会議場第Ⅷ会場（504+505 号室）
（日本臨床検査自動化学会第 50 回大会会場）
3. 出席者（敬称略）：池田、大久保、澤部、白井、三村、神山、村本、山本慶、篠原、松原、外園、藤本、高崎、柏木、田中、谷本、御子柴、金沢、青柳、沼田、大竹、清宮、和田、菊池、関田、山口、川崎、汐谷、末吉、山下、山内、緒方、春田、桑、大澤
欠席者（敬称略）：山舘、松本、河口、浅田、高笠、山本裕、細萱、片岡

4. 配布資料：

- 資料 1：第 19 回科学技術セミナー企画
- 資料 2：臨床検査医学会・自動化学会共催シンポジウム企画
- 資料 3：平成 30 年度第 1 回科学技術委員会議事録
- 資料 4：平成 30 年度科学技術委員会委員名簿
- 資料 5：科学技術委員会技術マニュアル・既刊と提案
- 資料 6：科学技術委員会内規（案）
- 資料 7：科学技術委員会平成 31 年度計画

5. 議事：

議事に先立ち、新規に委員となられた 9 名の先生方より挨拶があった。

1) 報告事項

(1) 第 19 回科学技術委員会セミナーについて

昨日（10 月 11 日）の 15 時 10 分より第一会場にて技術セミナーが開催された（資料 1）。非常に大きな会場で多くの方に参加していただいた。事前申し込みを 250 名の定員で開始したが、短期間でいっぱいとなったため、学会事務局と相談して 300 名まで拡大し、それもすぐに満員となった状況である。当日申し込みの方を含め 414 名（暫定集計）の参加があり盛況であった。基礎的・教育的な内容にポイントを絞った充実したセミナーであった。

(2) 科学技術委員会第 17 集マニュアルの刊行について

第 17 集マニュアルがすでに刊行されており、会員の手元に届いている。今回は会員からホームページなどを利用して質問を募集し、委員全員に回答をお願いした。池田委員長および編集幹事の神山先生から、委員の先生方にお礼の言葉があった。

(3) 日本臨床検査医学会学術集会における共催シンポジウムについて

今年 11 月に開催される臨床検査医学会学術集会より、自動化学会との共催シンポジウムの開催依頼があり、科学技術委員会が担当して実施することになった。「自動化機器から発信される臨床検査情報の活用」をテーマとして、16 日（金）に京王プラザホテルにて実施されるので、学会に参加される方は是非ご参加いただきたい旨の案内があった（資料 2）。

2) 審議事項

(1) 平成 30 年度第 1 回委員会議事録の承認

本年 4 月 6 日の春季セミナー時（奈良）に実施された、第 1 回委員会の議事録案が承認された（資料 3）。

(2) 平成 30 年度科学技術委員会委員について

今年の科学技術委員会委員は、資料 4 の名簿の通りである。現時点において分かる範囲で変更点を記載してあるが、他にも変更・追記等がある場合は事務局へ連絡していただきたい。

(3) 第 18 集マニュアルと第 20 回セミナーの企画・立案について

本委員会では毎年マニュアルを発刊しているが、現場で役立つ冊子として好評をいただいております、今後も継続する予定である。今後のテーマとして、前回までの議論に挙がっていた幾つかの候補が示され（資料 5）、今回さらに意見を出していただき議論した。その結果、

- ・患者データを使用する QA に関して理解しやすいもの
- ・現場の技師を育てるための教育的な内容のマニュアル
- ・品質改善・精度管理の実務や力量評価に関する総合的なマニュアル

等が新たなテーマ候補として意見が挙げられた。

その他、すぐに実施することは難しいが、実習を取り入れる、スマホ等のチャット機能を利用して討論形式で参加していただく、などの意見もあった。また、マニュアルが出版物として公表されるとそれは委員会の正式な見解と理解される可能性があるため、テーマによってはある程度時間をかけて内容を精査・調整する必要がある、との意見も出された。

活発な議論があり沢山の意見をいただいたが、時間の関係で結論まで審議するには至らなかったため、その後はメール審議とすることとなった。長期的な議論を要するテーマと比較的短期的な内容に分けることや、委員の数が増えたので分担制も考えることとしたい。

(4) 科学技術委員会規約について

科学技術委員会においては委員会規約が存在していなかったが、すでに内規を作成している POC 技術委員会のもを参考として内規案を作成した（資料 6）。審議の結果、

事務局を特定の施設に置くのではなく、事務局長の施設に置くことに修正して承認された。この内規案を学会理事会に図ることとなった。

(5) 今後の委員会活動および次回の開催予定について

資料7に基づいて、今後の委員会活動、技術セミナーの開催、マニュアル作成について説明があった。次回委員会は2019年4月26日(金)の札幌での春季セミナー時に予定している。4月26日はゴールデンウィークのスタートにあたるため、宿泊の確保は早めにしたほうが良い旨のアナウンスがあった。

(記録：澤部)